

# 既設の全原子力発電所の

## 「未来」について

- 原子力規制委員会が、活断層である可能性が高いと大筋合意しているもの。
- ▲ 原子力規制委員会が、敷地内破砕帯の最近の活動可能性の有無について追加調査を求めたもの。
- △ 敷地内破砕帯の活動性を判断するには情報不足で、引き続きデータ拡充に努めるもの。

すでに廃炉となっている原発、福島県内に設置されている原発。

活断層が存在する可能性が高い原発。

1975年12月以前に原子炉設置許可が出された原発。

原子力規制委員会が活断層について追加調査を求めた原発、引き続きデータ拡充に努める原発。

	施設名	40年経過年	活断層
既に廃炉	福島第一 1号機 (東京)		
	福島第一 2号機 (東京)		
	福島第一 3号機 (東京)		
	福島第一 4号機 (東京)		
2010年代に建設から40年経過	敦賀 1号機 (日本原電)	2010年	▲
	美浜 1号機 (関西)	2010年	▲
	美浜 2号機 (関西)	2012年	▲
	島根 1号機 (中国)	2014年	
	高浜 1号機 (関西)	2014年	△
	玄海 1号機 (九州)	2015年	
	高浜 2号機 (関西)	2015年	△
	美浜 3号機 (関西)	2016年	▲
	伊方 1号機 (四国)	2017年	
	福島第一 5号機 (東京)	2018年	
	東海第二 (日本原電)	2018年	
	大飯 1号機 (関西)	2019年	▲
	福島第一 6号機 (東京)	2019年	
	大飯 2号機 (関西)	2019年	▲
2020年代に建設から40年経過	玄海 2号機 (九州)	2021年	
	伊方 2号機 (四国)	2022年	
	福島第二 1号機 (東京)	2022年	
	福島第二 2号機 (東京)	2024年	
	女川 1号機 (東北)	2024年	
	川内 1号機 (九州)	2024年	
	高浜 3号機 (関西)	2025年	△
	高浜 4号機 (関西)	2025年	△
	福島第二 3号機 (東京)	2025年	
	柏崎刈羽 1号機 (東京)	2025年	△
	川内 2号機 (九州)	2025年	
	敦賀 2号機 (日本原電)	2027年	●
	福島第二 4号機 (東京)	2027年	
	浜岡 3号機 (中部)	2027年	△
島根 2号機 (中国)	2029年		
泊 1号機 (北海道)	2029年		
2030年代に建設から40年経過	柏崎刈羽 5号機 (東京)	2030年	△
	柏崎刈羽 2号機 (東京)	2030年	△
	泊 2号機 (北海道)	2031年	
	大飯 3号機 (関西)	2031年	▲
	大飯 4号機 (関西)	2033年	▲
	志賀 1号機 (北陸)	2033年	▲
	柏崎刈羽 3号機 (東京)	2033年	△
	浜岡 4号機 (中部)	2033年	△
	玄海 3号機 (九州)	2034年	
	柏崎刈羽 4号機 (東京)	2034年	△
	伊方 3号機 (四国)	2034年	
	女川 2号機 (東北)	2035年	
	柏崎刈羽 6号機 (東京)	2036年	△
	柏崎刈羽 7号機 (東京)	2037年	△
玄海 4号機 (九州)	2037年		
2040年代に建設から40年経過	女川 3号機 (東北)	2042年	
	浜岡 5号機 (中部)	2045年	△
	東通 1号機 (東北)	2045年	●
	志賀 2号機 (北陸)	2046年	▲
	泊 3号機 (北海道)	2049年	